

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		すたれいとばあそんず					公表日		2026年 9月 17日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		公園等の野外活動を行い、スペースを工夫している					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		2～5名の小集団で療育しており配置は適切だと思っている					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		できる限り事前準備を入念に実施し事務所等の出入りを極力避けている	軽度障害施設のため専門的設備はありませんが今後も整理整頓を心がけていきます				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		消毒・清潔を心掛け、室内温度の調節も適宜行っている					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		パーティションや個室を利用し、必要に応じて個別に対応できるようにしている					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		日頃から連絡ツールを用いて、こまめなやり取りができています					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		評価表は従業員全員へ周知している業務改善に大いに役立っており、改善につなげている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		おたより作成やスケジュール作成など職員全体で実施することで改善点を見つけ報告しやすい環境ができています					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	第三者評価会社への依頼は実施しておりません					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		オンライン受講を含め広く能力拡大、資質向上のための研修の機会が用意されている					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		HP上で公表しており、5領域の支援プログラム、支援システムAIを利用している。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		お客様すべてに対してAIを活用した支援ツールを使用し、客観的に支援計画を作成面談にて保護者の意見との合意を行っている					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		体験教室、モニタリングを支援員と児発管にて実施することで職員同士の共有化を図っている					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		日々のミーティングの中で問題が発生していれば修正を行っている					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		標準化された支援ツールを使用している					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		標準化された支援ツールを使用している。必要に応じて面談や支援会議を行い共通認識のもと支援内容を決定している					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		体験教室を支援員、児発管にて実施することで職員同士の共有化を図っている					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		様々なツールをいち早く取り入れ、常に新しい物に変化させて、工夫している。					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		児童支援員、児発管にて個別、集団の組み合わせを保護者と協議、話し合い流動的に行っている。					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		日々のミーティングの中で連携の確認を行っている					

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		毎日業務連絡内で日々気づいた点を共有 対処している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		定期的にモニタリング、及び保護者面談を 行い児童発達支援計画の見直しを行っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		江東区にはこのような場は無いが、弊社主導 で、他事業所に担当者会議を持ちかけ行っ ている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		整えているが、保護者に求められた場合のみ 行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		保護者に求められた場合のみ行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		保護者に求められた場合は対応している	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	3		江東区にはこのような制度は行っていないた め、受けれることは無いです。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパervayズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3		地域のプレイパークやお祭り、イベントに積極的に参加し 地域の子供たちと交流している。 また、要望があれば地域保育園等の見学も受け入れている	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		連絡帳アプリを使い、個別連絡を活用し、毎回共有を常に 図っている。保護者様からの共有も随時頂いている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		保護者参加型の療育を推奨しており希望者は参加いただい ております。また、連絡ツールを使用して適切な支援プロ グラム等を紹介している	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約の際、重要事項説明書にて説明を行っている。 また、ファイルは常に閲覧可能な状態にある	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		項目ごとに仕分けされた、アセスメントを保護者に回答し て頂き、支援ツールAIを使い、保護者と、弊社と協議し 行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3		保護者面談にて説明、及びご意見から修正 した結果を同意いただいています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		日々のご相談は連絡ツールにて実施面談が必要、又は希望される方には個別に面談を行っ ている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		プレーパーク、季節のイベントを開催して、ご家族の交流 の機会を設けている	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		365日、24時間、社長が常に迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		HP、連絡ツールでのおたよりなどから 随時情報を発信している。	

非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		常に注意している。扱う場合は2名で確認している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		保護者面談にて必ず確認している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		別事業にて実施していることも食堂にて地域連携を図っている	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		マニュアルを元に定期的な訓練を行っている 保護者が手に取り見れる場所に置いてある。	防災訓練等、定期的に実施している。全員に周知できる「おたより」「HP」で報告している
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		定期的な避難訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		保護者面談にて必ず確認、記載している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		保護者面談にて必ず確認、記載している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		遊具、道具を使用する際の安全管理を徹底して行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		保護者面談にて適宜ご説明しています	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		ヒヤリハット内容は従業員に常に共有している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		虐待防止の研修は順次参加している	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		現在身体拘束が必要な児童はいない。 受け持つことになった場合は記載します。	